

平成 23 年度 第1回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 23 年 6 月 14 日（火）清瀬市 野塩地域市民センター 第 2 会議室

項目	内容
I. 議事	
1. 平成 23 年度新河岸川流域川づくり連絡会の活動について	<p>平成 23 年度の連絡会活動について、連絡会メンバーによる意見交換が行われた。</p> <p>■主な意見等</p> <p>○新河岸川流域フォーラム・川でつながる発表会の開催について</p> <ul style="list-style-type: none">・東日本大震災では、津波が河川を遡上するなど、地震と河川との関わりは大きいと感じた。フォーラム等において、「地震」をテーマとして取り上げたらどうか。・原発事故による放射能が、雨水等へ溶け込み拡散しているという話を聞く。放射能が新河岸川流域にどのような影響を及ぼしているか不明であるが、「放射能汚染」をテーマとして取り上げてよいのではないか。・「地震」をテーマとした場合、フォーラム等は半年後の開催となるため、参加者にとって興味が薄れてしまうのではないか。また学識経験者の講演等（「地震」と新河岸川流域への影響等がテーマと想定される）が難しくなるのではないか。・テーマを地震のみに絞らず、「災害全般」とすれば、参加者が興味を持ちやすいのではないか。・「災害」をテーマとする場合、新河岸川流域の災害に対する脆弱性などを学べたらよいと思う。・新河岸川流域において、想定外の外力（災害）が生じた場合、どのような対応をとるべきか、といった視点から対策を検討する機会は非常に重要である。なお新河岸川流域の上流部では、地震時の津波による被害を想定するよりも、貯水池の決壊などによる被害を想定した方が現実的であると考えます。・「災害」と河川とのさまざまな関わりを学ぶことのできる場としては、フォーラムのほうが適しているのではないか。・子どもたちに災害について考える（発表する）場を提供すると、その親も災害に対して意識が高まることが多いようである。フォーラム等を通して、親子が一緒になって災害について考える機会をつくれぬか。・現在まで、毎年実施してきた川でつながる発表会も継続していきたい。・フォーラムの開催にあたっては、改めて、過去の災害や教訓を再認識・勉強できる機会にできればよい。 <p>■決まったこと</p> <ul style="list-style-type: none">・新河岸川流域フォーラムとして、災害の話題を組み込んだプログラムづくりを検討する。・新河岸川流域フォーラムの開催時期は、2月頃を予定する。
II. 勉強会	
<p>事務局より、「朝霞水門の運用状況」及び「野川ルール」の概要について紹介した。</p> <p>■主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none">・水門の開閉操作について、災害時などには適切な運営が重要となる。・環境用水を利用して、新河岸川流域における支川に水が流れるような環境をつくりだすことが重要であると考えます。・不老川では、以前は下流部からのポンプアップにより水位を確保していたが、現在は節電のために水位が低い状況である。節電に向けた対応は必要であると考えますが、根本的に川づくりのあり方を考え直す時期なのではないか。・新河岸川流域では、野生動物への餌やりや、外来種の増加などが問題となっていることから、野川ルールのような決まりが必要であると思う。・新河岸川流域におけるルールの検討にあたっては、新河岸川流域の各地域におけるルールの有無・内容等を把握する必要がある。	
III. 情報交換	
<p>◆事務局からの情報提供</p> <ul style="list-style-type: none">・柳瀬川で進めている水循環の取り組みを新河岸川流域全体に広げることを検討している。また今後は活動目的をより明確にした連絡会の運営が必要となることから、連絡会の今後のあり方について検討している。・11月頃、荒川放水路建設に関するシンポジウムの開催を予定している。 <p>◆平成 23 年度第 2 回連絡会開催について</p> <ul style="list-style-type: none">・今後の連絡会の開催時期・時間等は例年通りとする。・第 2 回新河岸川流域川づくり連絡会は、9月9日（金）または13日（火）を候補日として、清瀬市または朝霞市において開催する。	

以上